

長崎県植物誌ノート(5)

中西 弘 樹

Hiroki NAKANISHI : Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture (5)

ABSTRACT: The thirteen species and two forms including the ten alien species were newly found in Nagasaki Prefecture and new localities of the eleven species were added. *Dryopteris simarakii* was newly found in Kyushu. The distribution and ecology of *Rhododendron indicum* are described. The new locality of *Euchresta japonica* is the westernmost locality of the species.

はじめに

本研究は長崎県のフロラの解明を目的とするもので、主として外山(1980)の「長崎県植物誌」および松林(1981)の「長崎県シダ植物誌」に記載されていない県新産植物と、希産種の産地追加を報告する。前報に引き続いて、番号、種名、科名、産地、発見年月日、標本番号の順に記してある。

第5報をまとめるにあたって、北陽台高校(当時松浦高校)の今岡恵吾先生、長崎大学の篠原裕志氏には調査にご協力いただいた。またヌカイタチシダマガイとテンリュウカナワラビの重複標本は国立科学博物館に収めると共に、同館の中池敏之博士に同定をしていただいた。厚くお礼を申し上げる。

県新産の植物

外山(1980)および松林(1981)の目録に記録されていないもので、筆者が確認したものを記しておく。一部はすでに報告されたものもあるが、文献名と共にまとめて記録しておく。

新産の在来種

66. ヌカイタチシダマガイ *Dryopteris simarakii* (H. Ito) Kurata (オシダ科)

西彼杵郡西彼町平原郷中部, Mar. 31, 1988, (No.11923)

サイゴクベニシダに似ているが、葉質は薄く光沢がない。ベニシダ類の中では比較的大きく羽片はやや鎌形に曲がる。九州では初めての発見と思われる。上記の産地はすでに中西(1988)に報告してある。

67. テンリュウカナワラビ *Arachniodes* × *Kurosawae* Shimura et Kurata (オシダ科)

長崎市多以良町多以良川, Apr. 4, 1988, (No.11926)

オオカナワラビと似ていたが、一見して雑種と思われたので、中池敏之博士に同定をお願いしたところ、オオカナワラビとコバノカナワラビとの雑種であるテンリュウカナワラビであることがわかった。多以良川の川沿いに約20mに渡って群生している。すでに中西(1988)によって報告してある。

68. オオバタネツケバナ *Cardamine scutata* Thunb. (アブラナ科)

長崎市文教町, Apr. 12. 1987, (No11609); 同市畦別当町, May. 20. 1987, (No11547); 同市横尾町, May. 5. 1987, (No11619); 同市網場, May. 21. 1987, (No11672); 西彼杵郡多良見町市布, Mar. 16. 1987, (No11530); 同郡長与町池原, Mar. 21. 1987, (No11534); 同郡外海町岩背戸溪谷, May. 31. 1987, (No11633); 上県郡上県町御岳, May. 29. 1988, (No12057)

江島(1981)がすでに報告しているように、県下にはややふつうに産する。筆者はオオバタネツケバナと呼ばれているものに2型あると考えており、上部の葉の側羽片の数が多く、頂羽片が広卵形になるものと、側羽片が1, 2対で頂羽片がやや細く3つに切れ込む型のものがある。前者は牧野図鑑や保育社の「日本の野生植物」の図や写真のものに該当し、後者は保育社の「原色日本植物図鑑(草本編中)」や長田(1984)の「野草図鑑」の図や写真に該当する。この仲間は北半球の温帯域に広く分布し、変異もあるため、国内の標本にだけ基づいて分類するのは不可能である。

69. ムラサキコマンツメ *Viola verecunda* A. Gr. f. *violascens* Hiyama (スミレ科)

長崎市多以良町多以良川支流, Apr. 4. 1988, (No11921)

ニョイスミレの花が薄桃色で、紫の筋が入った品種で、美しい。谷の湿った岩上に生育していた。

70. サツキツツジ *Rhododendron indicum* (L.) Sweet (ツツジ科)

長崎市多以良町多以良川支流, Apr. 4. 1988, (No12121); June. 14. 1988, (No12136)

本種は関東西南部から東海、近畿までと、離れて九州に分布する日本固有種である。九州では屋久島に群落が知られ、本土では熊本県と佐賀県にまれに生育地が報告されてきた。長崎県では初めての産地として多以良川支流の溪谷に合計4株を発見することができた。サツキは鑑

賞用によく栽培されるため、逸出野生化する可能性もあるが、生育地はシイ林に囲まれた深い谷で、一般の人は近づき難い所であり、生育地の環境から本来の自地と考えられる。付近にはヤマツツジも生育しており、4月に発見した時は、葉がやや細い点でのみ区別されたが、ヤマツツジが溪谷に生育したものかも知れないと思われるので、その後観察を続けた。その結果、ヤマツツジの若葉はヘリが波うっているが、サツキは直線的に延びること、また花期はヤマツツジが5月中旬であるのに対して、サツキは6月上旬～中旬であることなどはっきり区別された。

新産の帰化植物

71. コンテリクラマゴケ *Selaginella uncinata* (Desv.) Spreng (イワヒバ科)

北松浦郡田平町野田, July 29. 1988, (No12203); 諫早市諫早公園, Mar. 21. 1989, (No12407)

中国南部原産で、鑑賞用のために栽培されることもあるが、各地に野生化している。クラマゴケに似て全体大きく、葉の表面には藍色の光沢がある。長崎県内に野生化していることは、すでに古賀(1988)によって報告されている。

72. ネズミムギ *Lolium multiflorum* Lam. (イネ科)

長崎市扇町, Apr. 29. 1988, (No11959); 同市多以良町, May 19. 1988, (No12013); 東彼杵郡東彼杵町千綿, Mar. 8. 1988, (No12007); 上県郡上県町佐須奈, May 29. 1988, (No12060, 12062)

近年、道路沿いや空地に広がっており、離島にもふつうに見られるようになった。この属の帰化植物は数種が知られているが、県下では本種が最も多く生育している。

73. ネズミホソムギ *Lolium × hybridum* Hausskn. (イネ科)

長崎市扇町, Apr. 29. 1988, (No11900,

11901) ; 同市多良町, May. 19. 1988, (No12132)

ネズミムギとホソムギとの雑種で、芒の大きさがネズミムギに比べて短い。県内には道路のヘリにややふつうに産する。

74. ヒロハウシノケグサ *Festuca elatior* L. (イネ科)

長崎市扇町, Apr. 29. 1988, (No11958)

県内には道路沿いにごくふつうに産し、離島にも多い。

75. ハナニラ *Brodiaea uniflora* Engler (ユリ科)

長崎市花丘町, Apr. 16. 1988, (No11953)

南米原産で、栽培のために導入されたが、各地に野生化している。草丈が低いために、ススキなど他の大型の草本が茂ると生育できなく、定期的に草刈りが行われるような草地に見られる。

76. ツルニチニチソウ *Vinca major* L. (キョウチクトウ科)

長崎市家野町, Apr. 14. 1988, (No11941) ;

同市川平町赤水平, July. 26. 1988, (No12239)

ヨーロッパ原産で、ふつう斑入りのものが栽培されるが、野生化しているものは、ほとんどが緑葉である。竹林の辺りなど、人家近くの斜面に生育しているつる性の植物で、薄紫色の花をつける。

77. ニオイスマイレ *Viola odorata* L.

長崎市大手町, Apr. 30. 1988, (No11952)

南ヨーロッパ原産。鑑賞用に栽培されるが、各地の市街地に野生化していることが知られている。地下茎はやや木化し、走出枝を出して殖えることができる。果実は球形で、短毛が密生しており、ふつうのスミレ属植物のように種子を自動的に飛散させることはできない。種子は大きく、白い大きな種枕が発達し、ほとんどがアリによって種子散布され、野生化したものであり、人家近くの道路の辺りや、石垣に見られ

る。果実や種子の形態は日本産のアオイスマイレに似ている。

78. サンシキスマイレ *Viola tricolor* L. (スミレ科)

長崎市扇町, Apr. 29. 1988, (No11962) ; 同市文教町, Apr. 29. 1988 (No11963)

浦上川の河川にほとんど毎年見られる。ふつうに栽培されているものと違い、花は小さな野生型である。

79. ダイコン *Raphanus sativus* L. var. *acanthiformis* Makino (アブラナ科)

長崎市昭和町大井手, Apr. 24. 1988,

(No11757) ; 同市文教町, Apr. 29. 1988,

(No11965)

浦上川の河床にはダイコンの野生化したものが、セイヨウアブラナなどと共に見られる。栽培種が逸出、野生化したものと思われるが、栽培されているものに比べて、葉は無毛に近く、その点ではハマダイコンと似ている。しかし、草丈は70~80cmと大きなものが多い。近頃は各地でよく見るようになった。

80. フランスギク *Chrysanthemum leucanthemum* L. (キク科)

長崎市大手町, May. 5. 1988, (No11993) ; 上県郡上県町宮原, May. 29. 1988, (No12106)

ヨーロッパ原産で、栽培されることもあるが、現在では各地に野生化している。特に対馬には多く、5~6月に白花がよく目立つ。土壌がかたく、かなり乾燥した所にも生育でき、道路沿いや、舗装していない駐車場の周囲などに生育している。

希少植物の産地追加

45. イヌナチクジャク *Dryopteris descipiens* L. (オシダ科)

西彼杵郡琴海町長浦郷手崎川支流, Mar. 31. 1988, (No11885, 11886)

県内ではこれまで対馬と平戸だけに知られて

いた。ナチクジャクとマルバベニシダの中間の形態をしている。

46. サイゴクホングウシダ *Lindaea japonica* Diels (イノモトソウ科)

長崎市多以良川多以良川支流, Apr. 4. 1988, (No11919)

溪流の岩上に生育する小型のシダで、これまで西彼杵半島の各地(琴海町, 西彼町, 大瀬戸町)や、五島福江島七岳などに産地が知られているのみであった。

47. ナルコスゲ *Carex curvicolis* Fr. et Sav. (カヤツリグサ科)

東彼杵郡東彼杵町千綿溪谷, May. 8. 1988, (No11995)

溪流の岩上に生育するスゲで、これまで県内では多良岳にのみ知られていた。

48. ヒメナベワリ *Corromia japonica* Miq. (ビャクブ科)

東彼杵郡東彼杵町千綿溪谷, May. 8. 1988, (No11996)

雲仙岳や多良岳などには比較的多く産し、長崎市内にも岩屋山などにまれに生育しているが、それ以外では知られていなかった。県内にはナベワリも産するが、花被片がすべて同長であるので区別できる。

49. シラン *Bletilla striata* Reich. (ラン科)

長崎市多良町, May. 19. 1988, (No12122)

大村市, 長崎市, 平戸市, 琴海町に産地が知られているが、いずれも生育地はまれである。上記の地で、溪谷の岩上に生育しているのを発見した。栽培されているのよりも草丈は低い。福江島三井楽町白良ヶ浜にも生育しているが、このものは栽培品の逸出かも知れない。

50. タニギキョウ *Peracarpa carnosus* Hook. var. *ciraeoides* Mak. (キキョウ科)

東彼杵郡東彼杵町千綿溪谷, May. 8. 1988, (No12000)

これまで雲仙岳と多良岳に知られていたが、

千綿溪谷にも生育しているのを発見した。このものは、通常のものより葉が小さい。

51. オキナワシタキズル(オキナワシタキソウ) *Stephanotis liukuensis* Koidz. (カモメズル科)

長崎市多以良町, May. 19. 1988, (No12120)

九州には同属の植物として、本種とシタキソウが分布していることになっており、鹿児島県(初島1986)、熊本県(熊本記念植物採集会1969)、長崎県(外山1980)にはオキナワシタキズルが、宮崎県(平田1984)、佐賀県(馬場1981)、福岡県(福岡県高等学校生物研究部編1975)にはシタキソウのみが記録されており、検討を要する。両種の区別は花がないと不可能である。上記産地で採集したものは花がなかったもので、いずれに含まれるかわからないが、これまでの県内の記録からオキナワシタキズルとしておく。長与町藤ノ棟でも見たことがある。

52. ヒメキラソウ *Ajuga pygmaea* A. Gray (シソ科)

松浦市波津崎, July. 29. 1988, (No12196)

台湾, 琉球列島, 九州南部から天草, 離れて九州西北部まで分布し、九州西北部ではまとまった分布域を示している。県内ではこれまで平戸市北部, 田平町, 大島村に知られていたが、松浦市の海岸岩上に生育しているのを発見した。北限は佐賀県波戸岬である。

53. ミヤマトベラ *Euchresta japonica* Benth. ex Oliver (マメ科)

南松浦郡玉之浦町岩谷山, July. 21. 1988, (No12159); 同町七岳, July. 22. 1988, (No12149)

照葉樹林の林下に生育する常緑の矮低木で、県内ではこれまで対馬と多良岳に知られていたが、福江島にも発見することができた。ミヤマトベラは日本固有種で、福江島は本種の西限にあたる。

54. ヒゼンガマズミ *Viburnum hizenense*

Hatsusima (スミカズラ科)

長崎市高尾町金比羅山, Sept. 15. 1988,
(No.12229, 12231)

ハクサンボクとガマズミの中間の形質を持ち、
間種と考えられている。長崎県からはこれまで
島原で発見されていただけであるが金比羅山の
中腹の登山道の縁で発見することができた。か
なり大きな株で、果実も多く見られた。

55. ツリフネソウ *Impatiens textori* Miquel
(ツリフネソウ科)

西彼杵郡長与町平木場, Nov. 20. 1988,
(No.12388)

温帯性の植物で、県下では対馬、多良岳、雲
仙岳、国見山などに産地が知られているが、長
与町にも発見することができた。生育地は日当
りのやや良い谷で、一面に群生していた。低地
では珍しい。

参 考 文 献

馬場胤義 (1981) : 佐賀県植物誌. 266pp. 佐賀
植物友の会, 佐賀.

江島正郎 (1981) : 対馬産 *Arabis* 属アブラナ科
の分布について. 長崎県生物学会誌(21) :

37—40.

福岡県高等学校生物研究部編(1975) : 福岡県植
物誌. 339pp. 博洋社, 福岡.

初島住彦編(1986) : 改訂鹿児島県植物目録. 290
pp. 鹿児島植物同好会, 鹿児島.

平田正一 (1984) : 宮崎県植物誌. 377pp. 宮崎
日日新聞社, 宮崎.

松林文作 (1981) : 長崎県シダ植物誌. 104pp.
長崎県出版文化協会, 長崎.

古賀伸一郎(1988) : 長崎県シダ通信(6). 日本シ
ダの会会報 2 (73) : 35—36.

熊本記念植物採集会編 (1969) : 熊本県植物誌.
436pp. 長崎書店, 熊本.

中西弘樹(1988) : 長崎県における新産のシダ植
物. 日本シダの会会報 2 (75・76) : 16—17.

長田武正 (1984) : 野草図鑑 6. 207pp. 保育
社, 東京.

外山三郎 (1980) : 長崎県植物誌. 321pp. 長崎
県生物学会, 長崎.

(なかにし・ひろき ; 〒852長崎市大手町
477—53)